

安全の未来を 予測する

株式会社トーキンシステム
会長 新川 弘一郎 氏



▼事故を防ぐ

1966年に東洋金属工業所として創業以来、鉄道関係の仕事に携わって50年近くが経つ。当時、取引先だった企業は船舶も扱っていたが、新川会長の気持ちは鉄道に向いていた。列車事故が相次ぐなか、ATS (automatic train stop=自動列車停止装置。鉄道での衝突防止や過速度防止の安全装置のひとつ) 開発に全力で取り組む株式会社京三製作所に共鳴したからだ。現在では、京三製作所の安全装置に深く関わっている。

鉄道保安装置は多くの人命にかかわるものだ。「飛行機は落ちると大事故になります。動く列車は、止めることで、この大事故を未然に防ぐことができるのです。この差が非常に大きいと私は考えます」

列車を止めることで事故を防ぐ——この思想のもとに同社は鉄道の仕事に取り組んだ。

「最新のハイテク技術の開発の基礎はアナログです。極端な話、ぎっこんばったんのシーソー実験のようなところから始めるのが開発なんです。長く遠い道のりを歩

いていく、それが技術です。こうした工夫の末、現在、新幹線は発着が1分内外なら事故が起こらないところまで来ている。そして、その向こうにリニアモーターカーも生まれたわけです」と、新川会長は振り返る。

これまで新幹線は、高速化を図るうえでアルミや樹脂を採用して軽量化をはかってきた。今後はさらに安全性も加味し、薄くて、軽くて、堅牢な新素材が車両にも使われていこう。同時に、信号技術も進化していくはずだと新川会長は考えている。

▼安全の未来

鉄道の安全装置は、なにより人命にかかわるものなので、信号機にはLEDなど最新のものが導入されている。「当初求められていたものは、たとえば信号でも、硬くて、ごつくて、潰れないもの——つまり、丈夫で長持ちするものでした。これからは大きなものをいかにコンパクト化していくかが求められるでしょう」

今後は日本の鉄道もより海外展開をしていくことを考えると、部品はユニット化していこうというのが、新川会長の予測

だ。「たとえばATCの場合、外側のケースは世界基準に統一化され、基板だけを最新式のものに取り換えることができるようになっていく可能性が考えられます。そのように、メーカー企業がどうしていくのかを予測して、事前に素材の選択や設備の導入など対応できる準備をしていくことが、中小企業にとって必要なことでしょう」

また一方で、踏切などの製造は大幅に伸びることも考えづらい。今後は安全関連装置のメンテナンスとオーバーホールを中心とする一方で、ノウハウを活かし車両部品にも進出していきたい意向だ。また、トーキンシステムは鉄道関連だけではなく、自動車業界や家電業界へも製品を納めている。自社の技術が役に立つならと、広い視野を心がけている。そして新川会長は「今まで積み上げてきた技術や経営ノウハウに、これからの新しい時代の考え方をプラスして、現・新川弘二社長に次代を担ってほしい」と未来を見つめている。

●会社概要

株式会社 トーキンスシステム

エミダス会員番号 88304

主要三品目

- ・精密板金加工
- ・組立配線
- ・技術開発工

■所在地：〒580-0006
大阪府松原市大堀2-16-30

■TEL：072-336-9221 FAX：072-336-9222

■代表者：新川 弘二

■担当者：井上 治孝

■URL：http://www.tokinsystem.co.jp

■従業員：110名

■創業：1966年

